

## 2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

※ 「1 自己評価及び外部評価結果」を評価機関から受領した時点で、3「サービス評価の実施と活用状況(振り返り)」と併せて作成します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	21	共有スペースにて入居者がソファで過ごしている際、特定の入居者に対して言葉の暴力(攻撃的な言動・いやみ等)が聞かれトラブルに繋がる場合がある。	言葉の暴力の対象となる入居者・周囲の状況を常に職員が把握し、トラブルになりそうな時はすぐに間に入りフォローする。	・トラブルに発展する前に職員が察知し、早めに職員が間に入り話題を変えたり役割活動をお願いしたり、状況を変えトラブルを未然に防ぐ。 ・トラブルが起きてしまった際はすぐに仲裁に入り精神面でのフォローを行う。	12ヶ月
2	35	入居者の尊厳を保持し、誇りやプライバシーを損ねない声掛けを心掛けているが、日々の関わりの中で状況によっては口調が強くなってしまう場合がある。	尊厳を保持し、誇りやプライバシーを損ねない声掛けを日々職員全員が意識し改善する。	・接遇に関する研修を受講し、基本的な言葉使いやマナーについて学習する。 ・職員会議で定期的に話し合い、どのような状況で声掛けがきつくなってしまうかを職員同士で振り返りを行い、日々の業務中にそのような声掛けがあればお互いに注意できるような意識付けと雰囲気づくりを行う。	6ヶ月
3	48	個別支援計画に沿って、入居者の希望や必要物品の購入に応じた外出支援を行っているが、特定の入居者に偏りがちである。	入居者皆がまんべんなく希望に応じ外出できるようにする。	・希望の表示が困難な入居者はこれまでの生活歴・ご家族からの聞き取りから希望を推測し、希望を自らは伝えてこない入居者には職員が聞き取りを行い、特定の方に偏らないよう計画的に行う。 ・リハビリ専門職の助言等を参考にし、外出支援を生活機能向上につなげられるよう個別計画に盛り込む。	12ヶ月
4	2	事業所としては、地域との繋がりは徐々にできてきたが、入居者の方々と交えての交流やつながりが少ない。	地域の方々と交流する機会を増やす。	・地区のイベントなど地域行事に積極的に参加していく。	12ヶ月
5					

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。なお、挿入した際は、印字状態を必ず確認して下さい。

## 2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向け取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

※ 「1 自己評価及び外部評価結果」を評価機関から受領した時点で、3「サービス評価の実施と活用状況(振り返り)」と併せて作成します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	27	日頃の関わりの中での気づきや変化等をケース記録や申し送りノートで共有しているが、内容の理解・認識不足や実践出来ないことがあり、統一ケアになっていないことがある。	職員全員が同じ情報を共有し、共通理解のもと統一ケアを実践する。	・情報を理解しやすいような記入の工夫と把握出来 たかのこまめな確認。 ・理解不足の場合に周囲に聞きやすい雰囲気作り。 ・統一ケアの重要性を全員が理解しているか再確認する。	3か月
2	21	認知症の進行による会話の理解力不足や難聴等により入居者様同士のコミュニケーションが難しいことがある。それにより苛立つ方も見られる。また、車椅子使用している方は孤立しやすい。	入居者様全員が孤立することなく、また、穏やかに過ごすことが出来る。	・入居者様同士のコミュニケーションが難しいと感じた場合はすぐに職員が間に入り橋渡しをする。 ・苛立ち見られた場合は話題の転換や役割活動を提供しトラブルを未然に防ぐ。 ・孤独感や孤立のないように職員が関わり他入居者様との交流を促す。	6か月
3	35	プライバシーの保護に努めているが、トイレ誘導の際に声掛けが大きかったりと羞恥心への配慮が不足していた。	羞恥心を感じさせないような誘導の工夫。	耳の遠い入居者様へは言語だけでなくジェスチャー等の非言語も組み合わせ、羞恥心解消を目指す。また、声掛けの工夫を職員全員で話し合い検討する。	3か月
4	47	1人1人に合わせた活動や役割活動を提供していたが、それに満足してしまい新たな活動の創出や工夫が不足しパターン化してしまっていた。	活動の幅を広げ、気分転換や楽しみ事の更なる提供により生き生きとした生活を送れる。	・会話の中から楽しみ事を見つけその時々に応じ提供する。 ・身体や精神の状態を的確に把握し、役割活動を継続提供する。 ・その日の気分で好きなことに取り組めるように、活動や楽しみ事を職員同士情報共有する。	3か月
5	54	入居者様が安全に過ごせるように職員間で心身や精神状態の把握を共有しているが、認識の相違もあった。また、危険性への気づきの視点が職員間での個人差もあり安全性への不足があった。	職員間での情報を共有し、入居者様がより安全に安心して過ごせるように支援する。	・職員同士コミュニケーションを多く持ち、申し送りノートを活用する等して情報の共有を図る。 ・細かなことでも気づいたことを話し合える環境・雰囲気を作る。 ・気づきの視点を養えるように、日頃から入居者様が過ごせるように意識する。	6か月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。なお、挿入した際は、印字状態を必ず確認して下さい。

## 2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくなるような、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

※ 「1 自己評価及び外部評価結果」を評価機関から受領した時点で、3「サービス評価の実施と活用状況(振り返り)」と併せて作成します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	46	利用者一人一人の薬の内容を把握しきれていない。また、薬の変更や臨時薬が出た際など薬ケースに名前と個数を記入しているが、服薬に対する意識が薄く飲み忘れの事故や服薬を落とすなど、事故につながるようなヒヤリハットが多い。	利用者一人一人の薬の内容を把握し薬の変更や臨時薬が出た際など職員全員が把握出来るようにする。	薬の変更があった際は、通院した職員や、薬を受け取った職員が責任を持って他職員に周知徹底を図る。また、変更があった際は薬ケースの個数をきちんとテブラで張り替える。	3ヶ月
2	35	月目標などに掲げ、プライバシーを損ねない声掛けを心掛けているが、日々の関わりの中で状況によっては、まだまだ口調が強くなってしまっていることがある。	プライバシーを損ねない声掛けを心掛けているが、日々の関わりの中で、状況によっては口調が強くなり入居者の方を怒らせてしまう場合がある。	どのような状況で声掛けがきつくなってしまうかを職員同士のコミュニケーションやミーティングの中で話題とし、又入居者への対応をその都度振り返り確認し、日々の業務の中で意識改善していく。	6ヶ月
3	48	入居者の希望に沿った外出支援を行っているが、まだまだ特定の入居者に偏りがちである。	特定の入居者だけでなく、多くの入居者の方が外出出来るようにする。	希望の意思表示が困難な入居者は今までの生活歴やご家族からの聞き取りから希望を推測し、希望を伝えてこない入居者は、職員が聞き取りを行い特定の方に偏らない外出支援に繋げる。また、通院後などに個別外出を行う。	6ヶ月
4	39	食事準備や後片付けなど職員と入居者の方で行っているが、食材取りなどの食事準備は特定の入居者の方に偏りがちである。	盛り付けだけでなく、食材切りなどにも多くの入居者の方が参加出来るようにする。	盛り付けだけでなく、食材切りなどにも多くの入居者の方が参加出来るように働きかける。	3ヶ月
5	24	入居時や家族・知人の面会時に入居者の情報を聞き取っているがまだ情報が少ないため、入居者の対応を考える上で更なる情報が必要である。	多くの情報を集め、入居者の生活歴を知りよりよい支援に繋げる事が出来る。	入居者の方に対しより良いサービスが出来るのか話し合いを行う。また、家族や知人の面会時に情報の聞き取りを行いサービス内容に反映できるものは反映させる。	6ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。なお、挿入した際は、印字状態を必ず確認して下さい。

## 2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

※ 「1 自己評価及び外部評価結果」を評価機関から受領した時点で、「3 サービス評価の実施と活用状況(振り返り)」と併せて作成します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	21	利用者の行動を予測しトラブルを防ぐ様になっているが、予測できないトラブルもあり防げない場合もある。又、特定の利用者へ一方的に悪い思い込みをもち、陰口という形で他利用者へと伝わっていく様子みられる。職員間に入り関係の修復を試みるも、思い込みが強くなかなか理解して頂けず対応が難しい。	お互い協力し支え合いながら、良好な人間関係を築き生活が出来る。	利用者の会話の内容・表情を観察し、トラブルや陰口見られたら職員間に入り悪い印象とならないよう声掛けに配慮したり、会話を変えたり、役割活動等で気分転換を図る。又、ケース記録に関わり成功した事例を記録し職員間で情報の共有を図り、参考にし利用者同士の良好な人間関係を築き生活ができるよう取り組む。	12ヶ月
2	35	人格やプライバシーを損ねないよう声掛け等配慮し対応しているが、転倒や事故が起きてしまうと予測する場面があるという強めの口調で制止してしまう時がある。又、精神状況から落ち着きがなかったり異常行動がある方に対して、焦りや不安等の感情が出てしまう時がある。	感情的な制止語・禁止語を使わず、人格や尊厳を傷つけないよう対応する。	職員一人一人が人格や尊厳を傷つけないよう意識を持ち取り組む。又、転倒や事故が起きてしまうと予測した場合は、直接利用者に言うのではなく、周りの職員に声をかけ対応してもらう。職員同士、感情的になったり制止語・禁止語を使う場面を作らない様にカバーし合い、気付いた点は話し合える環境を作る。	6ヶ月
3	36	自分の思いや希望を表せる方は比較的に支援を行う事が容易ではあるが、意思疎通の困難な方や遠慮しがちな方は、思いを汲み取る事が困難な時があり、職員側が上手く思いを汲み取れない事により相手にストレスを与えてしまっている感じを受ける。	意思疎通の方や遠慮がちな方も一人一人が自己決定出来るようになる。	日頃より利用者が好む事・好まない事等を観察し又、生活歴や性格を把握し馴染みの関係作りを行う。意思疎通困難の方には選択肢を設け、遠慮がちな方には皆さんの前でなく個別に関わり選択してもらい全員が自己決定できるようにする。又、ご家族の方からも情報をもらいながら、本人の希望に添えるよう努める。	6ヶ月
4	47	一人一人の生活歴や出来る力を活かした役割活動や、外出等で気分転換の機会が設けられるよう努めているも、ADLや意思表示力の違いから特定の人に偏ってしまう。又、ADLの低下や認知症の進行から以前出来ていた事が出来なくなってしまっている。	特定の人に偏らず、その人の生活や力量から出来る事や楽しみを見つけ実行する。	ADLや意思表示の低下がある方のケアプラン内容をミーティングで見直し、その人の望む生活というものを確認する。又、色々な活動・場面を提供し、その時の様子から出来る事・楽しんでいる事を見つけケアプランに反映させていく。	6ヶ月
5	33	オンコール体制の確保や、AED・心肺蘇生法の講習を年2回受けているが、実際の場面では、急変や事故発生時間帯にもより、冷静に実践できるか不安がある。	急変や事故発生時間帯に関係なくすべての職員が、マニュアル通りに冷静に対応できる。	ミーティング時等にマニュアルの確認を行ったり、発生を想定したシュミレーションを行い緊急時に備える。又、普段より医師や看護師との連携を密にし、事前に考えられる状態・状況を職員間で把握しておく。	12ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。なお、挿入した際は、印字状態を必ず確認して下さい。